

— 個人事例 —

楽しみきった経験を重ね、少しは見通しをもたせようとした実践

いきいきと熱中して活動に取り組む子をめざして

本城幸子

はじめに

入学式の日、母親の後ろにぴったりと寄り添って、指なめをしながら教室に入ってきたダウン症のE男。不慣れな場面では萎縮してしまうものの、その後学校生活に慣れてくるに従って自分の思いを力いっぱい表出し始めるようになっていった。発語は難しいが、独特の発声とジェスチャーを使って感情を表し、簡単な指示も理解することができた。しかし、気持ちの切り替えができず、一旦自分の好きな活動に取り掛かればそこから離れられない。また、思いつくままに行動するため教室に水を撒いたり、自分より小さな女子に対して関わりたい思いをうまく表現できず、髪を引っ張ったりするなどのトラブルも絶えなかった。本児にとっての充実した学校生活と友だちとの関わりは何であるかを考えながら、試行錯誤して取り組んだ半年間の実践について述べてみたい。

1 プロフィール

(1) 生育歴

- ・昭和62年10月13日生 7歳1か月 小学部1年 男子 ダウン症候群 點頭てんかん
- ・正常分娩 体重3,354g 出産直後は大声で泣かず乳が飲めない 首のすわり5か月
- ・出産直後ダウン症と診断 1歳で點頭てんかんと診断（表出發作は1度のみ 以後、抗てんかん薬を朝夕服用）
- ・5歳 県立K療育センターで発達指導を受ける（1年間）
- ・心身障害児通園施設 通園（平成4年4月～平成6年3月）6歳6か月本校入学
- ・両親、祖父母、姉（小学3年）、弟（1歳）の7人家族 父親は仕事のため単身赴任中

(2) 検査による実態

遠城寺式乳幼児発達検査(H6.5)によると、0:9～3:8歳の発達を示している。基本的な生活習慣や対人関係は3歳以上と比較的高いが、発語が困難で9か月の発達となっている。

項目	発達年齢
移動運動	1112222333444
手の運動	4690369048048
基本的な生活習慣	
対人関係	
発語	
言語理解	

遠城寺式乳幼児発達検査

(3) コミュニケーションに関する実態

- ・口の周辺の筋肉が未発達で高口蓋だが、笑い声などの大きな発声はできる。
- ・「あい（はい）」等の2、3の単語以外は「アー」という発声で気持ちを伝えようとする。
- ・言語理解は比較的高く、簡単な教師の指示理解はできる。
- ・発声と同時に体や表情全体を激しく使ったジェスチャーで自分の気持ちを伝えようとするので、

大人への気持ちの伝達はできることが多い。

#### (4) 行動特性

- ・陽気で人を笑わせたり、歌や踊りに楽しんで取り組んだりする。
- ・気持ちの切り替えができにくく、好きな活動を途中でやめることができない。中断されると、叫び声を上げて抵抗し噛みついたり、指なめをして動かなかったりすることが多い。また、指示を受け入れたようでも内面で納得ができず、しばらくしてから関係のない児童を突然たたくこともある。
- ・集中するまでは次々と興味に移り、まわりの児童の行動や環境に触発されやすい。
- ・体全体が未分化で筋力が無く、特に右足裏の発達が悪いため昨年まで装具を使用していた。

## 2 取り組みの構想

個人目標 いきいきと熱中して活動に取り組む子

つきたい力 ・筋力と身体意識の向上 ・集中力  
・少しは見通しを持って活動に取り組む力

コミュニケーションに視点をあてた取り組み

仮説 本児は、自己内対話や自制心も育っていない段階であり、まさに**自我の充実・拡大**の時期であると思われる。そこで、まず教師が環境を整え、場に合わない活動や社会に受け入れられにくい**失敗経験**をできるだけさせないよう努めたい。教師が、場に沿うものでより楽しめる活動とすり替えながら、意欲を損なわず充実した活動を継続させる。また、本児の**楽しめる教材**や**十分満足できる時間を保障**していく。そして、**成功感や充実感、人に認められる喜びの経験**を積み上げさせ、自我を充実させたい。このような楽しみきった生活経験を重ねることで、より視野を広げ、**幅広い物事に対して興味を持ったり、熱中して物事に取り組んだりする力の基礎**を作るのではないかと考えた。また、少し先に楽しいことがあるという**小さな見通しの素地作り**にもなると思われる。さらに、将来的には先を見通して行動する力や、自制心の芽生えへと発展していけると考える。

#### 指導の方針

- ①本児が意欲を持って取り組める教材や環境を設定する。
- ②気持ちをくみ取りながら目を離さず接する。
- ③待つ姿勢を大切にし、熱中できる時間を保障していく。
- ④少し先の楽しみを準備し、行動に意欲づけをおこなう。
- ⑤言語以外の身振りやカード、具体物等を使ったアプローチを取り入れる。

### 3 指導の実際

#### いきいきと取り組める学習活動を取り入れた実践（生活単元学習）

学習中離席することが多いが、他児に大きな迷惑がかからず学習内容に関連している場合には、できるだけその活動を認めるようにした。頭ごなしに注意しても、床に寝転んで動かなくなるなど取り組み意欲さえなくしてしまうことが多いので、本児が妥協できる代償等を与えながら、楽しんで学習に参加させようと心掛けた。その一方で、パターン化して見通しがもちやすく、拘束場面が少なく熱中できる活動を、学習場面に多く取り入れるよう配慮した。また、指示を精選し、具体物や絵カードをコミュニケーションの一つの手段として使い、よりわかりやすい教材提示に努めた。

月	単元名	活動の手がかり	学習内容と本児の反応
5月	おかあさん	<ul style="list-style-type: none"> <li>・具体物の提示</li> <li>・おかあさんに対する親しさ</li> <li>・食べ物への興味、見通しのもてる活動</li> <li>・感覚あそび</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・おかあさんの大きな写真を見ると、全身を使ったジェスチャーで嬉しさを表し、友だちと一緒に写真に向かって「あーあん。（おかあさん）」と大きな声で呼んだ。</li> <li>・[カレー作り] ジャがいもが平たくなるほど熱中して皮むきをした。手伝ってもらうことを嫌がり、教師が手を出そうとすると自分ですると言い張ってやり遂げた。</li> <li>・[クッキー作り] 教師が援助しながら、大きなおかあさんのクッキーを作ったが焼く間も気になり、調理室に何度も見に行った。持ち帰り、家庭で褒められたことがとても嬉しかったようである。</li> </ul>  <p>ジャがいもを切るE男</p>
6月 7月	たなばた発表会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・みたて・つもり活動</li> <li>・リズム活動</li> <li>・ダイナミックさ、感覚遊び</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本児の好きなみたて・つもり活動を劇の中に多く取り入れた。拘束場面や待ち時間がやや多く、当初は気持ちがうまく乗れないこともあったが、見通しができると楽しめるようになり、他児の世話も進んでした。特に、音楽に合わせて自由に活動できるシーンでは伸び伸びと体を動かして取り組んだ。</li> <li>・[背景作り] ボディペインティングもまじえながら、森の部分を中心に大きなハケでダイナミックに塗った。</li> </ul>  <p>背景塗りに熱中</p>
10月	いもほり宿泊	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食べ物への興味、つぶす活動</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・[調理遊び] さつまいもの皮を集中して皮むき器でむいた。K男と協力してボールを押さえながらいもをつぶす姿も見られた。</li> </ul>
11月	学習発表会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・みたて・つもり活動</li> <li>・感覚遊び、食べ物への興味、レストランごっこことつながり</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・[劇] 夜に靴をこっそり運ぶパントマイムのシーンでは、みたて・つむりの力を生かして即興で伸び伸びと演じた。</li> <li>・[作品作り] 小麦粉粘土で、ステーキ定食やラーメンを楽しんで作った。手伝われるのを拒み自分で最後まで取り組もうとし、時間をかけて完成させ、とても満足した表情であった。見学者にもごちそうを振る舞おうと誘いかけていた。</li> </ul>  <p>うさぎ役を演じるE男</p>  <p>はい、どうぞ</p>

### 少し先に楽しい目標を設定して意欲をわかせた実践

本児は、自分の好まない活動に対しては強い抵抗を示すことが多い。着替えの時間になり他児が着替え始めていても、自分から進んで取り掛かることができない。促されると、床に寝転んで指なめをしてしまう。しかし、教師が「着替えたら～して遊ぼう。」などの声かけをして具体物を見せるなど、少し先に楽しい目標を設定していくと、少しずつ気持ちの切り替えをして自分の力で着替えようとするが増えてきた。その他の場面でも、次の活動に移る際に気持ちの切り替えができず抵抗を示すことが多いが、次につながる小さな楽しみをその都度提示していくことにより、やる気を損ねず活動を継続することができた。また、何度か生活の中で繰り返した活動であれば、少しは見通しをもって自分で行動する様子も見られるようになってきた。



見通しがあれば一人で着替えも

### 家庭との連携を生かし認められる喜びをもたせた実践（生活ノートを通して）

小学部では、1日の学校生活を生活ノートに細かく記録し家庭に持ち帰らせて連携を図っている。母親が、生活ノート（下）をもとに学校での様子を聞くと、本児はジェスチャー等でいつも嬉しそうに様子を語っているようであった。また学校で頑張ったことを家庭でも褒めてもらうことが、本児にとってはさらに学校生活への意欲づけとなった。さらに、家庭でのエピソードを記録してもらい、朝の会で本児にその話題をなげかけると、本当に嬉しそうにその様子を表現しようとした。家庭と学校との連携の中で、本児のコミュニケーションの意欲がさらに広がったと感じる。



ジェスチャーで表現

#### 生活ノートの家庭からの返事

- |   |  |
|---|--|
| ・母の日のプレゼント、ありがとうございました。とてもとても感激でした。アアアと言いながら渡してくれ、気持ちも十分伝わりました。かわいいクッキー、とても食べられません。当分はながめていきたいです。(5月7日) | ・学校での様子がとてもよくわかります。元気いっぱい取り組んでいるようで、うれしく思います。おふろ大好きなEくんですから、うれしい顔が見えるようでおかしいですね。(6月2日) |
|---|--|

## 4 考察と今後の課題

学校行事や他児との関わりから、いつも本児の希望にかなり教材や時間を保障できたわけではないが、今後もできるだけ環境を整え、本児が熱中して取り組める状況作りをしていきたい。また、今後は自分の思いを通すばかりでなく、まわりの人と一緒に行動する大切さを少しずつ経験させることにより、自制心の芽を育てることへとつなげることを意識したい。

伝えたい思いはあふれるほどたくさんもっている本児だが、言葉が使えず曖昧なジェスチャーと発声では伝わらないことも多いであろう。そのためのいらだちも多く、また、言葉による自己内対話ができにくいイメージが広がらない。遠い将来は、不確かなイメージを整理し自分の思いをより正しく伝える手段として、決められたジェスチャーと発声を同時に用いるマカトン法等の導入も有効ではないかと考えている。